

公益社団法人 日本地震工学会 第2回理事会議事録

- A. 日 時 : 2013年6月27日(木) 17:00~20:50
- B. 場 所 : 建築会館 308会議室
- C. 出席者 :
- (会長) 安田進
- (副会長) 当麻純一、福和伸夫、山崎文雄、
- (担当理事) 福喜多輝、新海元、矢代晴実、境茂樹、加藤研一、鳥井信吾、
横井俊明、富田孝史、久田嘉章、古屋治、和泉信之、田村敬一、
塚本良道
- (監事) 田蔵隆、五十嵐克哉
- (欠席) 年縄巧、清野純史、松田隆
- オブザーバー出席: 嶋原毅事務局長、吹野美絵

D. 提出資料

- 資料 02-01 会長のあいさつ(安田会長)
- 資料 02-02 役員を紹介(福喜多理事)、自己紹介(全員)
- 資料 02-03 平成25年度理事会の進め方(福喜多理事)
- 資料 02-04 役員の方掌(福喜多理事)
- 資料 02-05 理事会年間予定(福喜多理事)
- 資料 02-06 第1回理事会議事録(案)(福喜多理事)
- 資料 02-07 公益社団法人日本地震工学会第1回社員総会議事録(加藤理事)
- 資料 02-08 会務報告(福喜多理事)
- 資料 02-09 日本地震工学シンポジウム積立金の手続き完了について(福喜多理事)
- 資料 02-10 日本学術会議「東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会」(福喜多理事)
- 資料 02-11 入退会者(加藤理事)
- 資料 02-12 共催・後援・協賛等(新海理事)
- 資料 02-13 委員会委員の委嘱(新海理事)
- 資料 02-14 地震被害調査関連学会連絡会について(田村理事)
- 資料 02-15 「地震災害対応活動に関する規程」の修正案(福喜多理事)
- 資料 02-16 事務局体制について(福喜多理事)
- 資料 02-17 平成25年度活動計画と予算(福喜多理事、矢代理事)
- 資料 02-18 平成25年度事業企画案(鳥井理事、境理事)
- 資料 02-19 2013年日本地震工学会年次大会、国際シンポジウム(古屋理事、清野理事)
- 資料 02-20 第14回日本地震工学シンポジウムの開催予定(山崎副会長)
- 資料 02-21 スペシャルアドバイザーの活動の場、会員種別について(加藤理事)
- 資料 02-22 次期会長候補選挙について(加藤理事)
- 資料 02-23 会誌編集委員会報告(久田理事)

- 資料 02-24 ジョン・ミルン展について（福喜多理事）
資料 02-25 関東地震 90 周年記念シンポジウムについて（福喜多理事）

E. 議題

1) 会長のあいさつ（安田会長、資料 02-01）

- ・南海トラフ地震について、学会として様々な活動をすべきである。本学会としては、こうすれば災害を軽減できるといった人々を安心させるような観点で社会に対して情報発信していくことが肝要である。
- ・本学会の活動について、メディアに対して紹介していく必要がある。
- ・外部からの研究受託を積極的に実施するために学会内の体制を整えることが必要である。
- ・東京地区以外の地方の活動を活発化できるように、地方に学会との橋渡し役の方を配置して、本学会の活動を更に活発なものにしたい。

2) 役員の紹介（福喜多理事、資料 02-02）、自己紹介（全員）

資料 02-02 を用いて役員の紹介がなされ、各理事の担当役職が確認された。

3) 平成 25 年度理事会の進め方（福喜多理事、資料 02-03）

福喜多理事より資料 02-03 を用い、今年度の理事会の進め方の説明があった。定款、理事会規則、理事会資料・開催案内、メール審議、ホームページ・JAEE News への寄稿について説明がなされた。

以下の点について修正を行う。

- ・定款と一部矛盾する記載内容（p.4：2 項 定時総会の付議事項(3)次年度事業計画と収支予算は削除されている）があるので、総務にて再度内容を確認し修正する。
- ・p.9 JAEE News の巻頭言は、1 年目の役員が持ち回りで 3 号に 2 回の頻度で執筆する。
- ・p.10 4 行事・催し物に「日本地震工学シンポジウム」を追記する。

役員の分掌（福喜多理事、資料 02-04）

資料 02-04 の内容通り、今年度の組織図、役員の分掌について確認された。

理事会年間予定（福喜多理事、資料 02-05）

資料 02-05 の内容通り、今年度の理事会、正副会長会議、拡大正副会長会議、会計監査、第 2 回通常総会の日程が確認された。

E 1. 報告事項

4) 議事録確認

第 1 回理事会議事録確認（福喜多理事、資料 02-06）

福喜多理事より資料 02-06 を用いて、第 1 回理事会議事録について説明があり、本内容にて了

承された。

公益社団法人日本地震工学会第1回社員総会議事録（加藤理事、資料 02-07）

加藤理事より資料 02-07 を用いて第1回社員総会議事録の説明があり、記載内容から首題を社員総会議事録から社員総会報告に修正とすることで承された。

5) 会務報告（福喜多理事、資料 02-08）

福喜多理事より、資料 02-08 を用いて、5月1日～6月27日までの会務報告がされた。

6) 日本地震工学シンポジウム積立金の手続き完了について（福喜多理事、資料 02-09）

福喜多理事より、日本地震工学シンポジウム運営資金に関して5団体（土木学会、日本建築学会、地盤工学会、日本機械学会、日本地震学会）より日本地震工学会への寄付の承諾があり、本会の「日本地震工学会シンポジウム積立金」規程に基づき「積立金」として受け入れる旨、報告された。

なお、規程の変更が必要な際には、本理事会にて審議することが確認された。

7) 日本学術会議「東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会」（福喜多理事、資料 02-10）

福喜多理事より資料 02-10 を用いて、東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会に昨年度に引き続き今年度も取り組むことが確認された。

併せて、今年度の実務およびシンポジウム企画担当者は、福喜多理事、嶋原事務局長とすることが確認された。

E 2. 議案

8) 入退会者（加藤理事、資料 02-11）

加藤理事より、2013年6月27日現在、入会者は正会員7名、学生会員1名との報告があった。

また、退会者は正会員2名、学生会員1名と報告され、承認された。

以上の結果、会員数は、名誉会員28名、正会員1,112名、学生会員104名で、現在総数は1,244名、法人会員92社となることが確認された。

9) 共催・後援・協賛等（新海理事、資料 02-12）

以下に示す、共催(1件)、後援(4件)、協賛(2件)の報告があり、承認された。

共催依頼：科博 NEWS 展示「ジョン・ミルン没後100年特別公開」

(主催：(独)国立科学博物館、共催：日本地震学会・日本地震工学会)

後援依頼：第4回「震災対策技術展」宮城

(主催：第4回震災対策技術展宮城実行委員会)

後援依頼：関東大震災90周年 首都防災ウィーク

(主催：首都防災ウィーク実行委員会)

後援依頼：第3回日本一チリ津波防災シンポジウム

(主催：(独)港湾空港技術研究所)

後援依頼：第8回定例セミナー

(主催：NPO 国境なき技師団)

協賛依頼：No.13-77 講習会 構造解析のための有限要素法入門

(主催：一般社団法人日本機械学会)

協賛依頼：2013年度計算力学技術者資格認定事業

(主催：一般社団法人日本機械学会)

10) 委員会委員の委嘱（新海理事、資料 02-13）

新海理事より資料 02-13 を用いて説明がされ、以下の点を修正の上、今年度の各委員会の体制が承認された。

- ・地震災害対応委員会は日下部毅明氏（国土交通省）を追記
- ・2013年度大会実行委員会は資料 02-19-01 に記載の委員とする。
- ・情報コミュニケーション委員会の記述が抜けていたので追記する（委員は前年度委員と同様）

地震被害調査関連学会連絡会について（田村理事、資料 02-14）

田村理事より資料 02-14 を用いて説明がされ、今年度の地震被害調査関連学会連絡会の体制が承認された。

11) 「地震災害対応活動に関する規程」の修正案（福喜多理事、資料 02-15）

福喜多理事より資料 02-15 を用いて、現在は規程で地震災害対応委員会委員長は副会長となっているが、現状に合わせて委員長が副会長でなくてもよいことをはっきりさせるため、規程の修正点について説明があった。また、併せて、表記方法の統一、言葉使いの修正が必要であったため、これらについて説明がされ、以下の点を修正の上、承認された。

- ・第5条(1)・地震災害対応委員会委員 ⇒ 地震災害対応委員会委員長

12) 事務局体制について（福喜多理事、資料 02-16）

福喜多理事より今後の事務局体制について説明がされ、鳴原事務局長は2014年5月末で退職し、後任の事務局長は、会長指名により吹野美絵さんとする事が承認された。

E 3. 懇談事項

13) 平成 25 年度活動計画と予算（福喜多理事、矢代理事、資料 02-17）

福喜多理事より資料 02-17 を用いて、平成 25 年度は支出の削減により、収支バランスを±0 とした収支予算書になっている旨の説明があった。

14) 平成 25 年度事業企画案（鳥井理事、境理事、資料 02-18-1、資料 02-18-2）

鳥井理事、境理事より資料 02-18-01 を用いて事業企画委員会の今年度の対応方針の説明がされ、

以下の意見が出された。

- ・事業企画委員会の中で、震災予防講演会について検討することが適切である。
- ・委員会経費を抑制する方法として、スカイプ等の通信機器を活用した委員会運営の在り方を検討することも必要である。通信機器を利用した委員会運営を既に他の学会で実施しているので参考にすべきである。
- ・社会貢献を目的とした事業と収益事業を区別して、委員会としての企画、運営を検討する必要がある。

以上の討議を踏まえ、次回の理事会にて十分な討議時間を確保して、事業企画委員会の実施内容や体制について検討することが確認された。

また、第1回の理事会にて強震記録の販売価格を値上げすることが了承されたが、強震記録DVDの内容が変わっていない（記録の追加や解説の追加など）のに価格を上げることは説明性に欠けるのではないかと、といった意見が出されたため、事業企画委員会で価格について再検討し、次回理事会で協議の上扱いを決定することになった。

次に、資料 02-18-2 を用いて 8 月 26 日(月)14:00～17:00 に「E—ディフェンス 免震建物加振実験見学会」の案内について説明があり、今年度は本内容で進めることが確認された。

15) 2013 年日本地震工学会年次大会、国際シンポジウム（古屋理事、清野理事、資料 02-19-01～06）

古屋理事より資料 02-19-01～06 を用いて年次大会の説明がされた。また、福喜多理事より国際シンポジウムの説明がなされ、以下のような意見があった。

- ・国際シンポジウムの開催の目的や意義（日本国内の留学生や海外研究者が発表する機会を設ける）、運営経費を鑑みて、今回設定している投稿料金、参加費用を再考すべきではないか。
- ・論文集を冊子とせず、USB や DVD とすることで支出を削減することについて検討してみてもどうか。
- ・年次大会、国際シンポジウムともに、論文投稿システムの改良費の一部負担を含めた収支予算書を作成して欲しい。

以上の意見を踏まえ、大会実行委員会、国際研究発表会実施委員会で投稿料金と参加費用について再度検討し、次回の理事会で報告することが確認された。

16) 第 14 回日本地震工学会シンポジウムの開催予定（山崎副会長、資料 02-20）

山崎副会長より資料 02-20 を用いて説明がされ、第 14 回日本地震工学会シンポジウムは 2014 年 12 月 4 日（木）～6 日（土）に幕張国際会議場で開催予定との報告がされた。

17) スペシャルアドバイザーの活動の場、会員種別について（加藤理事、資料 02-21）

加藤理事より、地震工学、地震防災の分野について、一般の市民の方々にご理解していただくため、今話題になっている南海トラフ巨大地震や首都直下地震などを題材として地震工学、地震防災分野の分かり易い講演会をスペシャルアドバイザーが企画・実施する案について説明があった。

これについて、以下の意見があった。

- ・本件と事業企画委員会で検討している講演会との棲み分けが必要である。
- ・本件は市民の目線にたった講演会を目指すものであるが、一般の市民の方から直接、講演依頼があるというのは少ないと考える。市民の方は、各自治体に問い合わせる機会が多いと思われるので、行政の防災課に周知するのが効果的である。
- ・本取組を行っていることが多くの方の目に触れるように Web サイトの掲載の工夫が必要である。

以上の意見を反映して、運用を開始することとなった。運用開始後は状況に合わせて周知方法や講演会内容をアップデートしていくことが確認された。

次に、加藤理事より 60 歳以上の退会者を減少させるため、新たにシニア会員（仮称）を設定する旨の説明があり、シニア会員の特典について他学会の動向を調査することとなった。

18) 次期会長候補選挙について（加藤理事、資料 02-22）

2015 年度次期会長候補に関して、2013 年 12 月に選挙、2014 年 1 月に次期会長候補決定という日程を進めたいとの説明があり、この日程に合わせて選挙管理委員会、役員候補推薦委員会の活動を始めることが確認された。

19) 会誌編集委員会報告（久田理事、資料 02-23）

久田理事より資料 02-23 を用いて会誌編集委員会の活動が報告された。

現在「関東地震 90 周年」「鳥取地震 70 周年」「日本海中部 30 周年」「北海道南西沖 20 周年」などについて特集記事を検討している。これを基に、講演会や図書販売などに利用するのも効果的ではないかとの意見があった。

20) ジョン・ミルン展について（福喜多理事、資料 02-24）

福喜多理事より資料 02-24 を用いて国立科学博物館における「ジョン・ミルン展」の特別公開とスペシャルアドバイザーの柴田明徳先生が講演するスペシャルトークショーについて紹介がされた。

21) 関東地震 90 周年記念シンポジウムについて（福喜多理事、資料 02-25）

福喜多理事より資料 02-25 を用いて、日本地震学会、日本地震工学会、歴史地震研究会が共同

で主催する関東地震 90 周年シンポジウムについて説明があった。8 月 27 日（火）の同シンポジウムで安田会長が「関東大震災と東日本大震災における液状化被害の比較」を講演されるとの報告がされた。

次回予定：平成 25 年 8 月 1 日 理事会 17：30 より
（場所：建築会館 308 会議室）

記録担当：総務理事 新海 元